【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和８年度学校評価 中間評価

**達成度（評価）**
**A**：十分達成できている
**B**：おおむね達成できている
**C**：やや不十分である
**D**：不十分である

様式１（小・中）

| 学校名 | 嬉野市立嬉野中学校 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 1　前年度<br>評価結果の概要 | 1　学習意欲・・・「生徒のよいところを認める」を意識して指導し、自己肯定感を高めることができた。授業では「学び合う活動」が定着しつつあるが、学力が二極化傾向にあり、次年度も引き続き「学び合う活動」の定着を目指し、さらに学習意欲・学力の向上を図りたい。<br>2　生活習慣・・・全職員による継続した「あいさつ」「掃除」「時間」に関する指導の結果、生徒たちにこれらの習慣は定着しつつある。次年度も引き続き定着に向けて重点的に取り組んでいきたい。<br>3　コミュニケーション能力・・・人権教育やよりよい集団づくりを意識し、人権意識を高める取り組みができた。次年度は、担任や学年中心の取り組みだけではなく、学校全体で意識をそろえることができればと考える。 |
| 2　学校教育目標 | 夢に向かう颯爽とした生徒の育成　～「嬉中まなび力」「嬉中しぐさ力」「嬉中きずな力」～ |
| 3　本年度の重点目標 | 1　学習意欲・・・生徒の自己肯定感を高め、授業を大切にし、学び合うことができる生徒を育成する。<br>2　生活習慣・・・「あいさつ」「掃除」「時間」を意識して指導し、生徒の自立のために個に応じた学びの場を設定する。<br>3　コミュニケーション能力・・・生徒同士のつながりを強め、自他ともに大切にできる生徒を育成する。 |

## 4　重点取組内容・成果指標　／　中間評価　／　5　最終評価

### (1)共通評価項目

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標（数値目標） | | 進捗度（評価） | 進捗状況と見通し | 達成度（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ○学びあうことができる授業の**定着** | ○「学びあう活動を通じて、自分の考えが広がり、『もっと知りたい、学びたい』という気持ちになった」と回答した生徒60%以上<br>○「学びあう活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と回答した生徒90%以上 | ・各教科で「自ら学ぶ姿」を明確にし、その姿を育む効果的な授業デザインを確立して、自ら学びに向かう力を高め、基礎学力向上にもつなげる。<br>・授業で適切に「学びあう活動」を設定する。<br>・校内研修でCo-Learningの時間を確保し、職員同士が学びあう習慣をつくる。 | B | ・「授業の学び合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」生徒88.0%、授業（単元）の中に適切に「学び合う活動」を設定している教員80.9%であった。<br>・前年度と比較して生徒、教員とも数値が10%近く低くなっている。職員研修を積み、定着させたい。<br>・学力調査等から学習の定着状況が二極化している。基礎学力向上のための手立てを実施したい。 | | ・ | | ・ | |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○「自他の生命や人権を尊重している」と回答した生徒95%<br>○人権尊重の視点に立った授業や体験活動を行っている教員90パーセント以上 | ・人権・同和教育、道徳等において人権尊重の視点に立った授業や体験活動を行う。<br>・集団づくりに関する研修を年間2回以上行う。<br>・年度初めや学校行事の前にエンカウンターやグループトレーニングを行い、生徒間のつながりを深める。 | A | ・「自他の生命や人権を尊重している」生徒97.5%、人権尊重の視点に立った授業や体験活動を行っている職員は100%であった。<br>・Q-Uテストをもとに集団づくりに関する研修を行った。今後も研修等を行い、望ましい集団づくりを目指す。<br>・行事前は、生徒間のつながりを深める道徳や学活を行った。 | | ・ | | ・ | |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめ防止等（いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員90%以上<br>○・「いじめを受けていない、いじめをしていない、いじめを見逃していない」生徒95パーセント以上 | ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。<br>・生徒指導部会・生徒指導協議会を定期に、個別のケース会議を随時行い、対応方針の決定・共通理解・共通実践を行う。 | B | ・「いじめの早期発見、早期対応そして組織的対応に努めている」教員100%、いじめを受けていない、いじめをしていない、いじめを見逃していない生徒は89．6%であった。<br>・いじめについては関係機関と連携し、継続的な指導を行っている。<br>・夏季休業中にいじめ対応研修を行った。<br>・未然防止、早期発見のため定期教育相談を行っている。 | | ・ | | ・ | |
| | ●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒90%以上<br>●◎「卒業後の進路や将来の夢や目標について考えている」について肯定的な回答をした生徒80%以上 | ・各種体験活動では、活躍の場と役割を設定し、目標達成のための指導を行う。<br>・キャリア教育を推進し、自己を多角的にみつめて各学年で卒業後の進路や自分の将来について考える機会を設定する。 | B | ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」生徒94.3%であった。<br>・「卒業後の進路や将来の夢や目標について考えている」について肯定的な回答をした生徒は70.7%に留まった。今後、後学期の学級活動や総合的な学習の時間で、自己を見つめ進路等に現実的に考える授業を実施したい。 | | ・ | | ・ | |
| | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 | ●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上 | ・生徒会と連携し、給食時の放送、給食委員会等で給食への関心を高める。<br>・学校栄養職員と連携し、必要な栄養について知識を深め、自己の健康管理を意識させる。 | A | ・「健康に良い食事をしている」生徒92.3%であった。<br>・給食に用いられている食材や調理方法、料理に関する知識を、給食時に放送で読み上げ、教室、配膳室前に掲示した。<br>・学校栄養職員による給食指導と栄養バランスの良い食事についての講話を1・2年生で行った。 | | ・ | | ・ | |
| ●健康・体つくり | ○望ましい生活習慣の形成 | ○「あいさつを進んでしている」生徒90%以上<br>○「掃除を丁寧にしている」生徒90%以上<br>○「時間を意識して生活を送っている」生徒90%以上 | ・「あいさつ」と「掃除」「時間を守ること」の目的や意味を伝え、継続的に指導を行う。<br>・生活記録表を活用し、生活習慣の見直しにつなげる。 | A | ・「あいさつを進んでしている」生徒90.2%であった。<br>・「掃除を丁寧にしている」生徒96.6%であった。<br>・「時間を意識して生活を送っている」生徒95.3%であった。<br>・「あいさつ」と「掃除」の目的や意味を伝え、継続的に指導を行った。今後も意識付けを行い、継続して指導を行いたい。<br>・時間を意識して行動していると回答した割合が高いが、実態との相違がある。継続して指導を行いたい。 | | ・ | | ・ | |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。<br>●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 | ・定時退勤日を毎週設定する。<br>・部活動休養日を適切に設定する。<br>・効果的・効率的な業務推進をする。<br>・職員会議等の改善を行い、効率化を進め時間短縮を図る。<br>・年休を取りやすい環境づくりを行う。 | B | ・「定時退勤日を意識している」教員60.9%であった。<br>・「部活動休養日を適切に設定している」教員100%であった。<br>・「業務を効率的に行うための工夫をしている」教員87.0%であった。<br>・全職員の9月までの各月の時間外勤務の平均時間数が、8ほとんど昨年度よりも上回っている。依然として時間外は多いため、後半は、定時退勤日の推進、業務改善を図っていく。 | | ・ | | ・ | |
| ●特別支援教育の充実 | ○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上 | ○「特別支援教育の理解を深め、個に応じた指導・支援に努力している」教師95% | ・年間5回、特別支援教育に関する職員研修を行う。<br>・支援を要する全ての生徒に対して、個別の支援計画を作成し活用する。<br>・UDを意識した教室環境や板書の仕方等、生徒の状況に配慮した指導を共通実践する。 | A | ・「特別支援教育の理解を深め、個に応じた指導・支援に努力している」教員95.6%であった。<br>・個別の支援が必要な生徒について個別の支援計画を作成した。定期的に部会をもち、必要な支援について部内で共通理解を図っている。 | | ・ | | ・ | |

### (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標（数値目標） | | 進捗度（評価） | 進捗状況と見通し | 達成度（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ○不登校対策 | ○不登校対応など、生徒の社会的な自立に向けた個に応じた取組の充実 | ○不登校対応等（不登校予防のための取組、ケース会議等）について組織的対応ができていると回答した教員90%以上<br>○すべての生徒を、個に応じた学びの場につなげる。 | ・不登校対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。<br>・ケース会議を定期的に行い、個に応じた対応方針の決定・共通理解・共通実践を行う。 | A | ・「不登校対応等（不登校予防のための取組、ケース会議等）について組織的対応ができている」教員95.7%であった。<br>・夏季休業中にスクールカウンセラーを講師に不登校対応研修を行った。<br>・ケース会議等を開くこともあるが、教育相談主任を中心に、より学年と連携し、組織的な対応を進めていく必要がある。 | | ・ | | ・ | |

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志と誇りを高める教育

| | |
|---|---|
| 5　総合評価・<br>次年度への展望 | ・<br>・<br>・ |